



## 「一番大きな石」の話

～いのちがけでほしいものをただひとつに的をしぼって試してみな。by 相田みつを～

「さあ、クイズの時間だ！」

大学のある授業で、教授はそう言って大きな壺（つぼ）を取り出し教壇に置きました。そして、その壺に、一つ一つ石を詰めていきました。壺がいっぱいになるまで石を詰めると、教授は聞きました。

「この壺は、もう満杯ですか。」

教室中の学生が、「はい」と答えました。「本当にそうですか。」教授は、そう言いながら、教壇の下からバケツいっぱい砂利（じゃり）を取り出して、壺の中に流し込みました。石と石との間を砂利が埋めていきます。そして、もう一度聞きました。

「この壺は、満杯ですか。」

一人の学生が「たぶん違う」と答えました。教授は、「そうだ！」と笑い、今度は教壇の下から砂利よりもっと細かい砂の入ったバケツを取り出し、それを石と砂利のすきまに流し込んだ後、3度目の質問をしました。

「この壺は、これで満杯になりましたか。」

学生は声をそろえて「いいえ」と答えると、教授は水差しを取り出し、水を壺のふちまでなみなみと注ぎ、そのあと、こう言いました。

「僕が何を言いたいかわかりますか。」

ひとりの学生が手を挙げました。「どんなにスケジュールが詰まっていて忙しいときでも、努力をすれば予定を詰め込むことが可能だということですか。」

「それは違う。」と教授。「重要なポイントはそこではないんだよ。この例が私たちに示してくれているのは、先に大きな石を入れないと、それが入る余地は二度とないということだ。この壺は、人生そのものを示している。では、私たちの人生にとって大きな石とは何だろうか。それは、仕事であったり、志（こころざし）であったり、家族であったり、自分の夢であったりする。つまり、『大きな石』とは、君たちにとって一番大切なものだ。それを最初の壺の中に入れなさい。さもないと、君たちは、それを永遠に失うことになる。」

「今現在、あなたの人生にとって一番大きな石とは、何でしょうか。」 文責 教頭松尾

## 祝 中国大会出場！走り高跳び広島県代表 森本 昇悟

第44回広島県中学校陸上競技選手権大会において、本校、3年生森本昇悟君が、共通男子走り高跳びで第2位となり中国大会出場を決めました。森本君は、広島県代表として、7月24日・25日の広島県陸上連盟主催の合宿に参加し8月開催の中国大会に臨みます。全国大会への切符を手に入れるよう頑張ってください。